

資料

山口県厚東川第二期工業用水道事業の紹介

○ 事業の主旨

宇部・山陽小野田地域は、石炭・石灰等の地下資源に恵まれ、戦前、戦後を通じて本県の鉱工業の発展を担ってきたところである。

当地域の工業用水は、厚東川ダムを水源とする厚東川工業用水道が昭和25年3月から給水を開始していたものの、高度経済成長による工業化の進展と都市化の進行に伴う都市用水の需要の増大に加え、度重なる渇水もしばしば起きた。

当事業は、このような地域の発展や人口の増加に伴い、増大する水需要に対応し、工業用水の安定供給による地域の振興に資する目的で実施されたものである。

○ 事業の経緯

厚東川第二期工業用水道は、企業の進出、人口増により増大する水需要や、水源不足が深刻化する中、新規の緊急水源開発対策として、昭和41年に旧通商産業省と県により厚東川ダムの嵩上げが計画されたが、移転補償（水没家屋約400戸）等の経済的な観点からこれを断念し、ダムの嵩上げ方式と同じ効果を持つ副貯水池による利水容量増大構想として、宇部丸山ダムの建設を進めることとなり、昭和45年に国の新規事業として第二期利水事業が採択され、厚東川第二期工業用水道の建設に着手することになった。

この工業用水道は、厚東川本流の既設厚東川ダムに隣接して、灌漑用丸山溜池地点に宇部丸山ダムを築造し、既設の厚東川ダムと圧力隧道（約2km）で連絡して両貯水池間の水を相互運用している。宇部丸山ダムの本体工事は、昭和46年4月から着工し、昭和54年7月に完成、同年10月から一部給水し、昭和60年4月から全量給水を開始した。

現在、当工業用水道は、給水開始以来約27年が経過しているが、施設の劣化に至るまでの期間は経っていない。しかし、地質上の特性として地層における石炭層の影響と思われる管体腐食が見られる。また、当施設は一系統で単連結された配置となっていることから、緊急時には断水を余儀なくされる状態にあるため、平成17年度から受水企業への安定供給の確保及び、水運

用の合理化を図るため、系統間（事業間）の主要幹線を連結（厚狭川工水管）、又はループ化することにより事業間の相互運用が出来るように整備を実施しているところである。

今後とも、県産業の発展に寄与する地域として重要基盤である工業用水の安定供給に努めていく。

○ ユーザーの概要

（平成19年4月1日現在）

業種	給水件数	契約水量 (m ³ /日)
化学	4	22,900
窯業	2	6,500
石油	1	16,700
その他	3	12,300
合計	10	58,400

○ 工業用水道施設の概要

工業用水の水源は、二級河川厚東川中流にある既設厚東川ダムの南西1.8kmの位置に建設された宇部丸山ダムであり、両貯水池間を圧力隧道で連結することにより、効率かつ高度な水開発を行ったもので、工業用水59,500m³/日の給水能力を有している。

送水施設は約14km、配水施設は約18km、総延長は約32kmとなっている。

○ 事業の特徴

- ・厚狭系の工水管と接続してループ運用を行うことで工業用水の安定供給を図っている。

○ 工業用水道概要図

厚東川工業用水道概要図参照

○ 山口県企業局ホームページアドレス

<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a40100/index/>